

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192300024		
法人名	有限会社 こすもすケアセンター		
事業所名	グループホームこすもすの森(ももユニット)		
所在地	岐阜県養老郡養老町有尾88番地		
自己評価作成日	平成23年7月1日	評価結果市町村受理日	平成23年8月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JGD=2192300024&amp;SGD=320&amp;PCD=21">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JGD=2192300024&amp;SGD=320&amp;PCD=21</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成23年7月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>田園の広がる環境で毎日自然を見ながらゆっくりと過ごしていただいている。畑でとれる野菜を活用している。収穫も入所者と共に行っている。季節感を感じてもらえるよう行事を行っている。入所者の思いにそった援助を行えるよう努力している。</p>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>ホームは、養老山脈を南に望み、稲田に囲まれた環境にあり、利用者は、自然を満喫しながら過ごしている。ホームの庭から、朝の日の出に元気をいただき、夕日に感謝しながら、広い庭を思いのまま散歩している。法人の寺が近くにあり、参拝したり、縁日を心待ちにしている。ホームの庭には、自給自足できるほどの畑があり、利用者と職員が共に野菜づくりを楽しみ、日々の食材として使用している。管理者と職員は、馴染みの環境の中で、利用者が自分のペースで生活できるよう、常に気配りをしながら、楽しく安らぎのある生活を提供している。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価票(ももユニット)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念を玄関入口に掲示し、職員は出勤時に確認することを行っている。 4項目の理念のうち3項目については方向性が見えてきている。 地域社会との繋がりを重視したい。	地域との繋がりを重視し、その人らしく尊厳のある生活の提供を含め、4項目の理念がある。理念は、出勤時に確認できるよう、玄関に大きく掲示されている。職員は、専門職として常に意識し、理念を踏まえたケアを実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩に出た時に近所の方々に挨拶や会話を笑顔で交わすことができる。 初詣、お寺のお参り事にも参加している。	ホームの夏祭など行事には、職員の友人や利用者の家族の参加などがある。近くの工場からは見守りの協力もある。利用者に町の広報が届けられている。地域の除雪作業などにも職員が参加している。	地域住民の一員として、地域の行事、(ホームの行事を除く)清掃活動などに参加するまでには至っていない。双方向での交流の発展に期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	グループホームの様子を、地区行事や寄り合いの際に尋ねられることがあり、その都度、分かりやすく説明している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3・11の東北大地震をうけ、防災に対する意識が向上しているのか、会議で話題になることが多くなり、防災への重要性を認識するようになった。	会議は、地域包括支援センター・区長・民生委員・地域代表・家族が参加し、2ヶ月毎に開催されている。運営報告と、東日本大地震を受けて、防災意識の向上、訓練の充実、備蓄品等について検討した。家具の固定や手作りの防災頭巾などの対策を推進することで合意できた。	運営推進会議は、ホーム外の集会場で行われているが、職員・利用者の表情や暮らしぶりが見えるホーム内での開催が望ましい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	更新申請代行手続き等、積極的に町に出向くようにしている。毎月、包括支援センターや健康福祉課に実情を報告するようにしている。	毎月、地域包括支援センターと健康福祉課に運営状況を報告している。運営推進会議には、地域包括支援センター所長が毎回参加し、課題を相談している。さらに、行政主催の行事には必ず参加するようにしており、日頃から連絡・協力体制を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束排除に関する勉強会を実施している。安全確保のため、玄関の施錠を行ってしまう場合がある。	玄関に身体拘束排除の文書が掲示され、日頃より身体拘束、虐待についての職員研修が実施されている。利用開始時に、利用者と家族に、身体拘束・施錠についての説明をし、理解を得ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止に関する勉強会を行い虐待の防止に努めている。		

岐阜県 グループホームこすもすの森

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	相続に関して相談を受けている方がみえ、成年後見制度についての説明を行った。職員間に浸透はしていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、家族が納得されるまで説明を行い、契約している。利用料金等の改正は、行われていない。不安・疑問点については、その都度説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者・家族の意見については、即対応を心掛けている。	家族の訪問時や電話で、意見を確認している。意見・要望に対する改善の経過や結果を、連絡簿で毎月家族に報告している。家族から歩行訓練の要請があり、他の利用者や家族にも、不要の器具などの提供等協力を依頼し、実施している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見・提案はその都度聞いている。働きやすい環境を作る、利用者の楽しみが増える環境を作ることであれば、すぐに対応するようにしている。	管理者・職員の定例会議で意見を聞いている。職員のアイデアで、防災頭巾なども作成した。働きやすい職場作りの提案もあり、意見・提案等は部門会議で検討し、運営に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に数回勤務評価を行っている。本人の思い等をアンケート形式にて記入してもらっている。その意見等は社員会議にて反映させている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年に数回、県やその他の機関が行っている研修会等への参加をいただいている。また、毎月勉強会や会議を行うようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内の施設との交流会を行えるように計画中である。今年7月に開始する予定である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	開所から1年経過した時も利用者の変更は無く、今年6月に始めて1名変更があった。以前からみえる方の中に入られる為、不安や本人の気持ちを受けとめ、すぐに慣れられるような環境作りをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者と家族の意向はなかなか一致しない。利用者・家族両者を支え、両者の関係を悪化させることがないよう、連絡を密に取るようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	医療面で不安がある方ばかりなので、まず、医療的な対応についての不安を取り除くようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者が職員の顔(一部利用者は名前をも把握されている)を覚えられており、それが安心の第一歩となっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	極力面会を勧めるように依頼している。家族も利用者に会うことに関して抵抗が無い方ばかりなので今まで通りの対応をしていきたい。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会者に対して、いつでも気兼ねなく、数多く訪問していただけるようお願いしている。本人が望まれる外出等(買物や通院)を行っている。	家族の訪問時に、馴染みの人を誘ってもらい、同行してもらうよう依頼している。ホームは、訪問者と利用者が楽しくくつろげる場所を提供し、毎回、記念写真を撮り、再度の訪問を促している。美容院や喫茶店などへは、本人の希望に応じ、家族と協力して支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ここでの生活は、皆一緒に行う、という利用者同士の連帯感が生まれている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今年6月に退所された方の家族とは、金銭面のこともあり、関係は継続中。 全く途切れることが無いようにしたい。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思表示が行える利用者の思いは受けとめて対応している。他の方は感情等を把握しながら援助している。	意思表示ができる利用者、あまり表情をださない利用者、それぞれの個性に合わせ、思いを把握している。利用者の希望に添い、ゆっくり傾聴することで、過去の意外な発見がある。思いや意向は、生活の中で、その人らしく、暮らし続けられるように活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者に関けない場合は、家族に尋ねるようにしている。信頼関係を築くことができるよう、積極的に話しかけ、過去の話しを引き出す支援を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	施設のスケジュールと本人の状態等に添った援助を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者・家族の意見はある程度把握できてはいる。チーム対応を行い、モニタリングを行っている。十分な対応とは言い難いが、一歩ずつ前進していると思われる。	利用者の担当職員が中心となり、日々のケアを記録し把握している。その他家族等の意見、専門職の意見を踏まえ、介護計画を作成している。全職員によるモニタリングが定例化している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノートの活用・利用者の状態の変化については、引継ぎや申し送りで共有している。計画の見直しは、3ヶ月・6ヶ月にこだわっていない。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の健康状態等に添ったケアを行っている。		

岐阜県 グループホームこすもすの森

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の中で生活を行っているため、地域の中の行事等に参加や、地域の人々から見守りも行ってもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	継続的な医療を受けられる支援を行っている。また協力医療機関の医師をかかりつけ医としている場合も、本人・家族との同意や納得がある。	本人・家族が応諾し、ほとんどの利用者が、協力医をかかりつけ医としている。週1回、協力医の往診がある。これまでのかかりつけ医を継続している利用者もある。受診は家族の役割だが、事情によってはホームで対応し、適切な医療支援をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	異常・異変に関しては、すぐに看護師に連絡・報告をし、的確に指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院された場合、1週間に1回程度で面会を行い、病院のSW、看護師と情報の交換をし、早期在宅復帰に向けた支援を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在では、該当する方がみえないので、この件についての支援は行っていない。今後の取り組みとして、終末期も家族の要望があれば医師と連携して行っていく予定である。	重度化や終末期への対応については、契約時に家族の希望を把握し、合意書を交わしている。医師・看護師と連携し、終末期にも対応する方針である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会・救命救急講習に参加し、その場に遭遇した時、慌てず冷静に対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昨年、避難訓練を実施しました。近隣住民への支援の呼びかけを行っている。	消防署の協力を得て、避難訓練を実施した。運営推進会議等に提案し、近隣の住民に支援を依頼している。	次回の防災訓練が計画中であるが、利用者の家族や近隣住民の参加・協力が得られるよう期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の尊厳と権利を守るという基本は、誰もが認識している。	日頃の何気ない言葉から、利用者が傷つくことを想定し、尊厳を大事にする研修が重ねられている。トイレ誘導や食事介助では、言葉かけを優しくゆったりし、一人ひとりの人格、個性を尊重した対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	特定の利用者にはできていることもあるが、本人が自己決定する場面は余り見られない。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事・入浴等の時間は施設サイドである程度制限しているが、時間に関しては利用者のペースで過ごすことができるようになっていく。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	特定の利用者では馴染みの理美容院を利用される方もあるが、大半の方は訪問理容で対応している。衣類に関しては家族が持参されるものを着用していただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は厨房係が担当している。利用者には野菜の収穫等の手伝いを時々行ってもらっている。食事介助はするが、職員と一緒に食べることはない。	庭の畑から、利用者と職員が収穫した野菜は、作る楽しみ、食べる楽しみに加え、食事時の楽しい話題ともなっている。厨房係りが、利用者に料理方法や味付けなどの意見を聴き、次のメニューに反映させている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事係を中心に食事量・水分量のチェックを徹底している。好きな食べ物をリサーチし提供するようになっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後のうがいや入れ歯の手入れは、しっかり行っている。		

岐阜県 グループホームこすもすの森

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入所当初より排尿・排便コントロールできない方が多かった。 自立されている方に関しては、トイレで排泄を行っていただいている。	利用開始当初は、排泄・排便のコントロールが無理な利用者も、排泄チェック表などによりトイレ誘導を行うことで改善されている。夜間、ポータブルトイレが必要な利用者には、部屋に設置されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	服薬コントロールしている利用者もあるが基本洗腸は行っていない。 おなかのマッサージ、ヨーグルト摂取を勧め自然排泄ができるようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴したいという希望時間の聞き入れは行っていない。2日に1回の入浴を行っている。清潔保持のため、時間外の入浴を行うことはある。	入浴は週2回行っている。清潔保持のため、利用者の希望があれば、その都度対応している。入浴を希望しない利用者を無理に誘うことはなく、「今日がダメなら明日でよい」など、臨機応変に利用者中心の対応を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息や睡眠は利用者の意思を尊重し、休んでいただくようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	飲み忘れ・誤薬を防ぐために、袋から出した人、個人別に仕分けする人、服薬時には名前と袋に記載してある名前を声に出して本人であることを確認後、服薬いただく。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	居室への持込物も少なく、もっぱらテレビに頼っている。散歩・日光浴にでることが主体である。会社の行事に参加する支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者本人の思いに添った外出は、家族の協力を得るようにしている。地域住民の協力には至っていない。戸外にでるのも近所である。	近所の寺に参拝に行ったり、ホームの近隣を散歩している。利用者の健康状態に合わせ、庭を散歩し、気分転換をしている。普段行けない所(足湯・外食・買い物等)へは、家族とも連携し、家族の協力を得て出かけている。	

岐阜県 グループホームこすもすの森

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	重要事項説明書では原則金銭の持込はご遠慮させていただいているが管理できる方にはご自分で管理していただいている。預かり金の使途は毎月報告している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話ができる利用者には使用いただいている。手紙に関しては、絵手紙程度の裏書に、職員が表書きを行うような支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	車いす利用の方が多く、歩行スペース、居住空間にストレスがあるのではと思う時がある。	共用空間は、木のぬくもりが感じられ、高い天井は開放感があり、車椅子でも安心して動けるゆとりの広さがある。ゆったり設置されたソファから、広い庭や田園、山々を眺め、思いのままくつろぐことができる。行事の写真や創り上げた作品も掲示されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	大きなソファを窓際に配置したり、和室もあり、居場所には満足いただいている感があります。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物や馴染みの物の持込は少ない方もみえます。在宅で馴染みのある空間を作っている方もある。	ベッドは備え付けである。整理タンスなど馴染みの物が持ち込まれ、家族とともに居室が創り出されている。思い出の写真、利用者の手作りの作品などが飾られ私の部屋と分かる工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	原則的なバリアフリー・一律の福祉機器の対応になっている。		

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192300025		
法人名	有限会社 こすもすケアセンター		
事業所名	グループホームこすもすの森(さくらユニット)		
所在地	岐阜県養老郡養老町有尾88番		
自己評価作成日	平成23年7月1日	評価結果市町村受理日	

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成23年7月30日		

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票(さくらユニット)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念を玄関入口に掲示し、職員は出勤時に確認することを行っている。 4項目の理念のうち3項目については方向性が見えてきている。 地域社会との繋がりを重視したい。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩に出た時に近所の方々に挨拶や会話を笑顔で交わすことができる。 初詣、お寺のお参り事にも参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	グループホームの様子を、地区行事や寄り合いの際に尋ねられることがあり、その都度、分かりやすく説明するようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	食事に関する改善提案や、メニューの検討についての意見をいただいております、サービス向上に活かす検討をしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	更新申請代行手続き等、積極的に町に出向くようにしている。毎月、包括支援センターや健康福祉課に実情を報告するようにしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束排除に関する勉強会を実施している。安全確保のため、玄関の施錠を行ってしまう場合がある。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止に関する勉強会を行い虐待の防止に努めている。		

岐阜県 グループホームこすもすの森

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を受けたいと言われる家族があり、病院にその旨を伝え、診断書等の依頼を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、家族が納得されるまで説明を行い、契約している。利用料金等の改正は行われていない。不安・疑問点については、その都度説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者・家族の意見については、即対応を心掛けている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見・提案はその都度聞いている。働きやすい環境を作る、利用者の楽しみが増える環境を作ることであればすぐに対応するようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に数回勤務評価を行っている。本人の思い等をアンケート形式にて記入してもらっている。その意見等は社員会議にて反映させている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年に数回、県やその他の機関が行っている研修会等への参加をいただいている。また、毎月勉強会や会議を行うようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内の施設との交流会を行うよう計画中である。この7月に開始する予定である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	開所から1年経過した時も利用者の変更は無く、今年6月に始めて1名変更があった。ももユニットからの居室移動であり、スムーズに受け込むことができた。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者と家族の意向はなかなか一致しない。利用者・家族両者を支え、両者の関係を悪化させることがないよう、連絡を密に取るようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	医療面で不安がある方ばかりなので、まず、医療的な対応についての不安を取り除くようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者が職員の顔(一部利用者は名前をも把握されている)を覚えられており、それが安心の第一歩となっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	極力面会を勧めるように依頼している。家族も利用者に会うことに関して抵抗が無い方ばかりなので今まで通りの対応をしていきたい。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会者に対して、いつでも気兼ねなく、数多く訪問していただけるようお願いしている。本人が望まれる外出等(買物や通院)を行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ここでの生活は皆一緒に行うという利用者間の連帯感が生まれている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今年6月に退所された方の家族とは、現状の報告を受けたり、今後の方針についての相談を受けています。 全く途切れることが無いようにしたい。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思表示が行える利用者の思いは受けとめて対応している。他の方は感情等を把握しながら援助している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者に聞けない場合は、家族に尋ねるようにしている。信頼関係を築くことができるよう、積極的に話しかけ過去の話しを引き出す支援を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	施設のスケジュールと本人の状態等に添った援助を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者・家族の意見はある程度把握できている。チーム対応を行いモニタリングを行うようにしている。十分な対応とは言えないが前進していると思う。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノートの活用・利用者の状態の変化については引継ぎや申し送りで共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の、健康状態に添ったケアを行っている。		

岐阜県 グループホームこすもすの森

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の中で生活を行っているため、地域の中の行事等に参加や、地域の人々から見守りも行ってもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	継続的な医療を受けられる支援を行っている。また協力医療機関の医師をかかりつけ医としている場合も、本人・家族との同意や納得がある。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	異常・異変に関しては、すぐに看護師に連絡・報告をし、的確に指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院された場合、1週間に1回程度で面会を行い、病院のSW、看護師と情報の交換をし、早期在宅復帰に向けた支援を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在では、該当する方がみえないので、この件に関しての支援は行っていないが、今後、終末期に関して家族の要望があれば医師と連携して行っていく予定である。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会・救命救急講習に参加し、その場に遭遇した時は慌てず冷静に対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昨年、避難訓練を実施しました。近隣住民への支援の呼びかけを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の尊厳と権利を守るという基本は誰もが認識している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	特定の利用者にはできていることもあるが、本人が自己決定する場面は余り見られない。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事・入浴等の時間は施設サイドである程度制限しているが、時間に関しては利用者のペースで過ごすことができるようになってきている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	特定の利用者では馴染みの理美容院を利用される方もあるが、大半の方は訪問理容で対応している。衣類に関しては家族が持参されるものを着用していただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は厨房係が担当している。利用者には野菜の収穫等の手伝いを時々行ってもらっている。食事介助はするが、職員が利用者と一緒に食べることは行っていない。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事係を中心に食事量・水分量のチェックを徹底している。好きな食べ物をリサーチし提供するようになっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後のうがい・入れ歯の手入れは、しっかり行っていたりするような支援を行っています。		

岐阜県 グループホームこすもすの森

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的なトイレ誘導を行うとともに排尿・排便のサインを見逃さないように注意を払い、トイレでの排泄が継続して自立できるよう支援をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	服薬コントロールしている利用者もある。本人の希望により浣腸を行う利用者もいます。便秘対策としての目だった運動は行っていない。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴したいという希望時間の聞き入れは行っていない。2日に1度の入浴を行っている。清潔保持のため時間外の入浴を行うことはある。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息や睡眠は利用者の意思を尊重し、休んでいただくようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	飲み忘れ・誤薬を防ぐために、袋から出した人、個人別に仕分けする人、服薬時には名前と袋に記載してある名前を声に出して本人であることを確認後、服薬いただく。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	居室への持込物も少なく、もっぱらテレビに頼っている。散歩・日光浴にでることが主体である。会社の行事には積極的に参加されるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者本人の思いに添った外出は、家族の協力を得るようにしている。地域住民の協力には至っていない。戸外にでるのも近所である。		

岐阜県 グループホームこすもすの森

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	重要事項説明書では原則金銭の持込はご遠慮させていただいているため、金銭所持は行っていない。 預かり金の使途は毎月報告しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は職員で対応しています。 手紙に関しては、絵手紙程度の裏書に、職員が表書きを行うような支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	混乱を招くような事例は過去に発生していない。居心地は良いと判断しています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	大きなソファを窓際に配置したり和室もあり、居場所には満足いただいている感があります。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物や馴染みの物の持込は少ない方もみえる。 在宅で馴染みのある空間を作っている方もみえる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	原則的なバリアフリー・一律の福祉機器の対応となっている。		